

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901670		
法人名	有限会社 ツインクルサポート		
事業所名	グループホーム かがやき (1階)		
所在地	〒071-8135 旭川市末広5条2丁目4番1号		
自己評価作成日	平成23年11月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅に近い生活が送れるよう、家庭的な雰囲気を作り、利用者のペースに合わせながら、できることや興味のありそうなことを引き出しながら、生活に楽しみがもてるよう支援している。また、地域との交流をもてるよう、行事に運営推進会議のメンバーや小学校の児童の方との交流が持てるような企画を立てたことで、去年とは違って交流を深めることができた。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901670&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年2月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は職員が理念に「素直な気持ち」「謙虚な気持ち」「感謝な気持ち」「地域共生の気持ち」を掲げ、その理念に沿い利用者の尊厳を大切に、お世話させていただいているという謙虚な気持ちでケアにあたっている。利用者の表情も穏やかで明るく、職員は常に利用者との会話を絶やさないように心がけている。利用者の楽しみとして、グルメツアーや出前、リハビリメイク、買い物ツアー、イルミネーションの見学、夏祭りなどの行事を計画し、生活に潤いを与えている。また、看護師が常駐し、医療関係者との連携も取れており、医療面でも安心である。温度管理だけでなく湿度もしっかり管理し、健康面に気を配っている。家族会や運営推進会議の時だけでなく、常日頃から、意見要望を家族から聞き、運営に反映している。地域に根ざした事業所として管理者が町内会の班長を引き受け、町内会の人達と馴染みの関係を築き、隣接している有料老人ホームとの合同の夏祭りには近所の人達が大量参加し交流している。また、地域の小学生と一緒に新年会やクリスマスを祝うなど、地域にとけ込んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「素直な気持ち」、「謙虚な気持ち」、感謝の気持ち、「地域共生の気持ち」と4つの理念を掲げているが、時々、忘れがちになっている。	日々のケアにおいてお世話させていただいているという謙虚な気持ちで利用者に接している。また、地域との交流も浸透してきており、理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は町内会班長にもなり、日常的に交流をもつようにしている。また、町内の行事にも参加できそうな内容については、積極的に参加している。	隣接する有料老人ホームと合同の夏祭りに近所の人が大勢参加したり、町内のジンギスカンパーティーに参加するなど、相互に交流している。また、近隣の小学生の体験学習として一緒に行事を行うなど、地域にとけ込んできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からサービスの種類や内容について、聞かれることはあるが、認知症の人の理解や支援の方法についてはあまり相談されることがない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1回のペースで運営推進会議を開いており、そこで利用者の状況や外部評価結果等について報告して、メンバーの意見や助言をいただき、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は、町内会長、婦人部長、地域包括支援センター職員、家族の参加を得て、2ヶ月に1度開催している。夏祭りなどの行事の後に運営推進会議を開催している。会議のメンバーが行事に参加し、利用者と交流し事業所を見学してもらうことにより、よりよいアドバイスや協力関係を得ている。	運営推進会議に出席できない家族にも会議の議事録を送付し、共有することが望ましい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の研修会や講習会に参加して、お互いの情報を共有するよう努めている。	市主催の講習会や地域包括支援センター主催の研修会に参加し、情報やアドバイスを得ている。また、運営上の相談やケースワーカーとの連携など、普段から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	講習会や研修会等に参加して、ミーティングや申し送り等で利用者の対応について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部・内部研修を行い、職員にどのようなことが身体拘束にあたるか周知しており、話し合っって身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠やベッド柵などの拘束は一切していない。転倒防止のため夜間だけ、やむをえずベッドセンサーを使用しているが、家族の理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や講習会に参加して、ミーティングや申し送り等で利用者の対応について話し合い、虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や講習会に参加して、ミーティングに研修報告会を開き、ご家族からの問い合わせや相談に活用している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項説明書を説明する際、不安や疑問等を聞きながら、その都度、確認している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見や苦情等がある場合、その都度、管理者や職員が対応している。また、玄関先にご意見箱を設置して気軽に意見が書けるようにしている。	来訪時や運営推進会議、家族会などで、家族から意見や要望を聞き、運営に反映している。また、日常的に利用者の要望を聞いて、運営に反映している。家族に3ヶ月に1度ブライト通信を送付しており、喜ばれている。	来訪時に家族に利用者の様子を伝えているが、遠くにいる家族に知らせる為にも個別のコーナーを通信に設けるか、利用明細書を送付するときに一言付け加えるなど、さらなる取り組みを期待する。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は毎月のミーティングや朝・夕の申し送りで、職員の意見や提案を聞ける場を設けている。	管理者は職員の気づき、意見を毎月のミーティングや申し送りの時に聞き、ケアの向上に反映している。また、定期的に個別面談を行い、職員と話し合う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の仕事に対する姿勢や意欲等も把握しながら、雇用形態を考え、日々のコミュニケーションで意見や要望を聞き、働きやすい環境を作るように努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては指導担当を付けて、スムーズに業務ができるよう指導している。また、各職員に応じて、内外の研修に積極的に参加できるよう配慮している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや旭川市主催の研修会や勉強会・交流会等に参加して、サービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人が困っていることや不安なこと、要望等を聞き、安心して入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族等が困っていることや不安なこと、要望等を聞き、できる限り取り入れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用時、必要なサービスや支援を見極め、相談、助言に努めている。医療機関やリハビリ等、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でできることを見つけながら、暮らしを共にできるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、本人の近況を伝え、面会以外でも電話や手紙などで伝えるようにしている。また、行事をきっかけに家族にも参加していただき、本人と家族、そして、職員との信頼関係を深めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が積極的に馴染みの人や場所に連れ出したり、可能な限り、知人宅や銀行など、希望に応じて対応している。	家族や友人の来訪時に部屋で話ができるように配慮している。遠方の家族が宿泊できるよう簡易ベッドを用意したり、電話をかけてあげるなど関係が途切れないように支援している。馴染みの美容室に行ったり、かかりつけ医の受診支援など、これまでしてきたことを継続するよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はほとんどリビングで過ごすことが多く、利用者同士が思い思いに過ごされている。また、職員が周辺にいて話をしたり、そばで一緒に過ごしている為、あまり孤立することがない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、必要に応じて、本人や家族の経過を見ながら、いつでも相談できるよう伝え、その後の生活に支障がないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	限られた条件の中で本人の意志や要望を聞きながら、可能な限り、希望に添えるよう家族の協力も仰ぎながら支援している。	日常生活の中で、職員は利用者が思いや希望を言いやすい環境をつくり、把握に努めている。担当制になっているので、職員は担当の利用者については特に責任を持って把握に努め、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や生活環境等、本人や家族に聞き、わかる範囲の情報をつかむよう努めている。また、入居後、生活していく中で少しずつ知りたい部分を聞き取りしていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、心身状態、性格等、毎日の申し送りやカンファレンスを開きながら、少しずつ把握していく。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族・職員の気付いた事や意見を取り入れながら、アセスメントを行い、課題を明らかにしていき、介護計画を作成している。また、担当職員を決め、定期的に見直し、随時、計画を立て直している。	介護計画は職員全体で関わり、利用者、家族の意向を把握しており、職員の気づきを反映しながら作成している。担当職員が定期的アセスメント、モニタリングを行い、介護計画を作成している。様式を変更し、介護計画と介護日誌が連動した記載になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録書と介護計画書がわかりやすいよう様式を変更して、日々の様子や気づきなどが記入できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に応じて、可能な限り、色々なサービスを取り入れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にメイクボランティアの方に来ていただき、メイク指導を受けたり、近くの小学校の児童と一緒にゲームや歌を唄うなどといった交流の場を設けている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談して、かかりつけ医を決め、主治医と相談しながら、適切な治療を検討している。また、受診には、職員だけでなく家族にも可能な限り、同席していただき、同席できない場合には受診結果を電話や面会時、伝えるようにしている。	従来のかかりつけ医を希望する人や協力医に変更する人それぞれに職員は必ず同行し、同行できない家族には受診後報告している。家族が同行する時も、職員が付き添い、身体状況を医師に説明している。常勤の看護師がいるので、日常の健康チェックも適切に行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として看護師を配置して、利用者や家族が相談できるようにしている。また、日常業務の中で健康管理や異常の早期発見に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時には必ず、職員が付き添い、病院関係者との情報交換や相談は行っており、病院によって、病院関係者との関係はできていく。入院中もなるべく職員が訪問して、本人の病状を関係職員に聞くようにしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状況に応じて、早い段階から本人や家族の意向を聞き、職員がどのくらい対応できるか話し合いながら、日々、取り組んでいる。	看取りの指針を重要事項説明書に記載し、利用開始時に家族の同意を得ている。終末期の対応については本人、家族、医療関係者と話し合い、特に医療面について今後、どこまで関わられるか検討中である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、専門知識のある業者の方や消防署員を招いて、講習・避難訓練をしている。また、応急処置や急変時の対応については、看護師が中心となって、研修会を開いている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が中心となり、日頃から万が一に備え、定期的に訓練を行っている。また、近隣住民にも協力が得られるよう運営推進会議の議題にして、避難訓練にも参加していただいている。	スプリンクラーや緊急通報装置は設置済みであり、通報訓練も行っている。年2回昼夜想定避難訓練を地域の人も参加して行っている。救急救命講習も運営推進会議後メンバーが参加した。隣接する有料老人ホームや地域住民と災害時の協力関係を構築している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々によって、性格や感情もちがう為、一人ひとりの人格を尊重するよう言葉掛けや対応している。また、日常的なケアでもプライバシーに配慮するよう努めている。	接遇や守秘義務、個人情報保護法について、勉強会で学んだり、常日頃話し合っており、利用者の人格を尊重するような言葉遣いや対応をしている。また、通信や施設内の写真の掲載も家族から同意を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で本人の思いや希望が言えるよう会話をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	通院や入浴など、他利用者の状況に応じて、可能な限り、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容については、定期的に出張サービスやご家族対応でなじみの店を利用している。また、希望者に応じて、月1回、メイクボランティアさんに来ていただき、プロにメイクをしてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お膳・テーブル拭きなど、利用者の状態を見極めながらお手伝いしてもらっている。また、偏食や食べられない物については、栄養士や家族に相談しながら、代替食を用意している。	献立は隣接する有料老人ホームの栄養士が作成し、栄養バランスがとれている。職員と一緒に食事し、テーブル拭きなどできることを利用者が手伝っている。外食や出前、パーベキューなどを取り入れ変化をつけ、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂取量や水分摂取量が少ない人は記録している。また、個々の状態に応じて、食べ物や飲み物・食事時間を変えたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の能力に応じて、声掛け・介助している。必ず、起床時・就寝時には口腔ケアを行い、個々によっては、毎食後も口腔ケアしている。また、口腔内の状態によって、訪問歯科診療を利用して、治療や指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者に合うと考えられる排泄方法で体に負担なく排泄ができるように支援している。	トイレ排泄を基本として排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行い排泄支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は利用者の食事や水分摂取量を把握して、主治医・看護師に相談しながら、便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	通院介助や食事の準備など、他の業務もあり、希望通りに曜日を選んでいただくことが極めて困難である。しかし、できる限り、時間帯を選んでいただき、お風呂の楽しみを感じていただけるよう支援している。	週2回の入浴を基本とし、夏場はシャワー浴や清拭も行っている。同性介助を希望する利用者には希望に沿った支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムに合わせて、ゆっくりと休息や眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の薬の内容や目的等を理解して、個々に応じて、服薬方法を考え、薬箱やチェックボードを活用して誤薬防止に努めている。また、薬の変更があった場合、必ず、伝達するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や食事等を行ったり、音楽鑑賞や簡単なゲームなど、利用者の楽しみを作っている。また、不定期ではあるが、ホームで喫茶店を開き、雰囲気を楽しんでもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が「外出したい」、「買い物に行きたい」等、希望があった場合、その時の状況によって、要望に応じられるよう支援している。しかし、支援できない場合はご家族に連絡して協力を仰いでいる。	日常的に散歩や可能な限り買い物支援を行っている。買い物ツアーやさくらんぼ狩りや紅葉狩り、観桜会、外食、イルミネーションツアーなどの行事を計画し、閉じこもらないように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望によって、自己管理している方もいるが、利用者によっては、お金を所持しようという意思がない方は、必要に応じて立替払いにて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、手紙や電話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所が分かりやすいように表示したり、季節感を感じられるよう、飾りや写真を貼り、共用スペースには色々な物は置かないようにしている。また、空調や湿度の管理をして快適に過ごせるよう配慮している。	食堂とリビングの共用空間は一つになっており、道路に面した一面はガラス張りとなっているので、採光が充分入り、明るく開放的である。毎月変わる季節の飾り物や行事、職員の写真を展示しており、温かい雰囲気となっている。温度・湿度は適時管理し、居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに一人になれるスペースはあるが、あまり使っていない。ほとんど、居室で過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、できる限り、本人にとって、なじみ深く、使い慣れた物を持ち込んでいただくようお願いしている。また、家族がいつでも泊まれるようにお部屋・簡易ベットを用意している。	タンス、ベッド、レースのカーテンは事業所で用意しているが、カーテンや暖簾は各自の好みで、個性を出している。居室には利用者の使い慣れた家具や写真、装飾品を持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく、フローリングのため、車椅子や歩行器使用に適している。また、要所要所に手すりを設け、トイレや居室にはわかりやすい目印を付けている。		